

2023年2月19日 午前礼拝
「天の御国の生き方③」 柔和な者 説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

マタイ 5:5

5. 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。

【説教要約】

① 山上の説教

山上の説教の第三回目です。

この山上の説教は、イエス様を信じた人が、神様と生きるためにどのように生きたら良いのかというメッセージです。

イエス様を信じた人は、その瞬間からまったく新しい人生に変えられます。この世界の生き方とは違う生き方になるのです。

それを具体的に描いているのが山上の説教です。

ぜひ一度、5 - 7章の山上の説教を読んでみてください。そこには非常に高度なことが書かれています。私もちょうど「私もこうなりたい」と励ましをいただけることと思います。

この山上の説教に描かれているのは、「神様と共に生きる人」の生き方ですが、完全にはイエス様のお姿なのです。私たちの救い主であるイエス様に似ていく生き方が山上の説教の生き方なのです。

そこに招かれているのは、なんと幸いなことではないでしょうか。

今日見ていくのは、最初の8つの「幸いな人」の3番目です。山上の説教は、神様から見て「幸せな人」のイメージから始まっています。

すでに、「心の貧しい者」「悲しむ者」を見てきました。

この世界の常識では、このような人は虚しい人生、もったいない人生を送った人と見えます。しかし神様の目には全く逆で、このような人たちこそ神様と一緒に生きる「幸せ者」だと言われているのです。

② モーセ

マタイ 5:5, 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。

さて、次にイエス様が言われたのは、「柔和な者」です。

「柔和」と言いますと日本語では「穏やかな人」とか「優しい人」という意味です。しかし、これでは語弊があるのです。

聖書のことばが言おうとしているのは、「自分が無力であると知っている人」「自分で権力を持たない人」と言えます。

このことを、旧約聖書のモーセという人を通して見たいと思います。

モーセは、出エジプトのリーダーです。
奴隷だったイスラエルを脱出させるために神様が用いられました。

イスラエルは奴隷でしたが、モーセだけはエジプトの王女に拾われたので、王家の子供として育ちます。王家の学問、リーダーシップを備えていきます。

40歳の時、モーセは思いました。「私は学問もあり、リーダーシップもある。神はイスラエルを助けるために、私を特別に育てたのだ」。
そのような自信から、モーセは自分で敵のエジプト人を殺し、自分の力でイスラエルのリーダーになろうとしました。
ところが失敗してしまい、仲間のイスラエルからは「エジプト人を殺したように、私たちも殺す気か」と信頼されなかったのです。
(使徒 7:17-29)

挫折したモーセはミデヤンという地方に逃亡して、リーダーとは全く関係のない羊飼いと
して生きていくこととなります。

ところが40年経って、モーセが80歳になった時神様が現れて、「わたしがあなたをエジプトに遣わす」と言われました。つまり、「あなたをイスラエルのリーダーにする」と。

出エジプト 3:11, モーセは神に申し上げた。「私はいったい何者なのでしょう。パロのもと
に行ってイスラエル人をエジプトから連れ出さなければならないとは。」

しかしモーセからすれば、「すでに自分はリーダーになろうとして失敗してしまったし、40年経って80歳になってしまった。今更、リーダーとして自分が立てるはずがない」と思いました。リーダーになる自信が、モーセにはもうなかったのです。

モーセは4度、神様が遣わそうと言われたのを拒みます。しかし神様は、モーセをこのように
言って励まします。

出エジプト 3:12a, 神は仰せられた。「わたしはあなたとともにいる。これがあなたのため
のしるしである。わたしがあなたを遣わすのだ。」

出エジプト 4:11, 主は彼に仰せられた。「だれが人に口をつけたのか。だれが口をきけなくし、耳を聞こえなくし、あるいは、目を開いたり、盲目にしたりするのか。それはこのわたし、主ではないか。

出エジプト 4:12, さあ行け。わたしがあなたの口とともにあって、あなたの言うべきことを教えよう。」

成功の秘訣は、モーセがどのくらい能力があり、若さがあり、リーダーらしいかではなかったのです。

神がともにおられるかどうかだけが唯一のカギだったのです。

こうして、80歳のモーセがイスラエルのリーダーとなりました。それは彼に力があつたからではなく、神に力があつたからです。

10の災い、紅海を分ける。神様が「わたしはあなたとともにいる」と言われた通り、神様は奇跡をもってエジプトから脱出させられました。

(使徒 7:30-36)

このモーセについて、聖書は「地上のだれにもまさって非常に謙遜」と言っている箇所があります。今日は「柔和な者」についてですが、モーセに言われている「謙遜」は「柔和」と同じ原語です。

民数記 12:1, そのとき、ミリヤムはアロンといっしょに、モーセがめとっていたクシュ人の女のことで彼を非難した。モーセがクシュ人の女をめとっていたからである。

民数記 12:2, 彼らは言った。「主はただモーセとだけ話されたのでしょうか。私たちとも話されたのではないのでしょうか。」主はこれを聞かれた。

民数記 12:3, さて、モーセという人は、地上のだれにもまさって非常に謙遜であった。

ミリアムとアロンはモーセの姉と兄です。

モーセが外国人の妻を持っていたので、「それは神の立てたリーダーとしてふさわしくないじゃないか」と非難したのです。

それだけでなく彼らは、「神は本当にモーセだけ特別にリーダーにされたのだろうか。私たちも特別なリーダーにふさわしいではないか」と文句を言ったのです。

モーセはリーダーだったので、「私は神に立てられたリーダーだぞ」と彼らを説き伏せることができました。何も言わずに従わせることもできました。

しかし、モーセをリーダーにしたのは誰の力だったのでしょうか。

モーセの力ではなく、神様の権威だったのです。

それでモーセは、ミリヤムとアロンに言い返すのではなく黙っていました。

聖書はそれを一言、「モーセという人は、地上のだれにもまさって非常に謙遜であった」と描いています。

モーセは、リーダーの権威が神様のものだと思っていたので、自分で自分を弁護せず、神様に委ねたのです。

この後、どうなったのでしょうか。
神様ご自身がミリヤムとアロンを呼び出され、言われました。

民数記 12:6, 「わたしのことばを聞け。もし、あなたがたのひとりが預言者であるなら、主であるわたしは、幻の中でその者にわたしを知らせ、夢の中でその者に語る。

民数記 12:7, しかしわたしのしもべモーセとはそうではない。彼はわたしの全家を通じて忠実な者である。

民数記 12:8, 彼とは、わたしは口と口とで語り、明らかに語って、なぞで話すことはしない。彼はまた、主の姿を仰ぎ見ている。なぜ、あなたがたは、わたしのしもべモーセを恐れずに非難するのか。」

民数記 12:9, 主の怒りが彼らに向かって燃え上がり、主は去って行かれた。

「神が立てたリーダーのモーセを、なぜ恐れずに非難するのか」と神様がモーセを弁護されたのです。そしてミリヤムの上に奇跡として病が下されました。

モーセは、自分がリーダーである理由が100%神様の権威であると分かっていたので、自分で言い返さず神様に委ねました。

もし少しでも「私がリーダーになっているのは、私が優れているからだ」と思っていたなら、文句を言ってきたミリヤムやアロンに言い返していたか、仕返しをしていたでしょう。

③キリスト

マタイ 5:5, 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。

モーセを代表として見てきましたが、今日は「柔和な者」が神様にとって幸いだということです。

「柔和」とは、「自分が無力であると知っている人」「自分で権力を持たない人」と言えるでしょうか。

なぜなら、力があるのは神様。権威があるのは神様だけだからです。

この柔和は、イエス様の特徴でもあります。

Iペテロ 2:21, あなたがたが召されたのは、実はそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようと、あなたがたに模範を残されました。

Iペテロ 2:22, キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。

Iペテロ 2:23, ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。

Iペテロ 2:24, そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。

イエス様も、この世で数々の苦しみに遭いました。無罪なのに十字架につけられ、「本当に神の子なら今すぐ降りてこい」と言われ、見下されののしられました。

しかしイエス様は彼らの上に立とうと権威を振りかざすことはありませんでした。むしろ、その苦しみを黙って受け入れられました。

それは単に「優しい」とか「懐が深い」からではありません。
「正しくさばかれる方にお任せになりました」とある通りです。

イエス様をこの世に遣わし、権威を授けておられるのは天の父であって、自分ではない。それを知っておられたから、イエス様は天のお父様にすべてを委ねました。天の父が、本当の権威をもっておられるからです。

私たちは日ごろ、みじめさとの戦いがあるかと思います。自分が低い位置に置かれることは苦しいのです。それで多くの方は認められようと自分の力で高い場所に行こうとします。しかし本当は神様から見れば、どのような地位や名声を持っていてもみじめなのです。先回見ましたが、人は皆罪びとだからです。

ですから神様は、この世で高いか低いかではなく、神様に頼る者をただ高く見てくださいます。人に力はなく、神様にこそ権威があるからです。

イエス様を自分の罪からの救い主として信じるなら、その時から永遠に神の子供としての地位をいただきます。

この神様の子供として生きられるとは、本当に幸せなことだと思いませんか。この世でどんな位置や環境に置かれようとも、神の子供という最高の地位を私たちはすでにいただいているのです。

それは一切、私たちの力で得たのではなく、ただ神様が与えてくださった地位なのです。

自分の力ではなく、神様に頼って生きる一週間となりますように。